

**東海支部 第35回塑性加工技術セミナー**  
**基礎から学ぶ塑性加工実践教育講座（板成形3回コース）**  
**— 実験で理解する板成形（1回目） —**

日時：令和4年6月20日(月)、6月21日(火) 9:00～17:00

会場：大同大学滝春校舎 A 棟 14 階交流室  
[〒457-8530 名古屋市南区滝春町 10 番地 3  
Tel: 052-612-6111]

交通：名古屋鉄道常滑線 大同町駅下車 徒歩 3 分

主催：日本塑性加工学会東海支部

協賛：軽金属学会東海支部、精密工学会東海支部、  
日本機械学会東海支部、日本金属学会東海支  
部、日本鉄鋼協会東海支部、自動車技術会中  
部支部

趣旨：東海支部では、初級技術者を対象とした「塑性加工技術セミナー」を平成 20 年度より開講しています。

本年度も、下記の「板成形 3 回コース」を開講しますので、企業の第一線で御活躍されている方々には、本技術セミナーを貴社の新入社員の教育に是非とも御活用下さい。

- 1) 入門講座：実験で理解する板成形
- 2) 基礎講座：演習で学ぶ板成形  
(8月～9月に名古屋工業大学で開催予定)
- 3) 応用講座：シミュレーションで確かめる板成形  
(9月に名古屋で開催予定)

本技術セミナーでは、帯板のV曲げと円板の深絞りを例にして板成形の基礎を学びます。さらに、普通鋼と高張力鋼（あるいはアルミニウム合金）の違いにも着目し、スプリングバック量や限界絞り比が材種に依存することを学びます。第1回では、V曲げと深絞りを実験で理解します。続いて第2回では、V曲げと深絞りの初等解析を演習を通して学びます。最後の第3回では、V曲げと深絞りを FEM シミュレーション (JSTAMP を予定) を用いて解析します。

また、毎年人気の、大学や企業の大先輩の特別講演「経験に学ぶ塑性加工」を本年度も引き続き開催します。

プログラム：

○第1日目 6月20日(月)

- 9:00- 9:05 開講にあたって 支部長挨拶  
9:05- 9:30 帯板の引張試験及びV曲げ試験(説明)  
9:30-12:00 帯板の引張試験及びV曲げ試験(実験)  
13:00-15:30 データ整理(塑性係数,  $n$  値,  $r$  値,  
スプリングバック)  
15:30-17:00 経験に学ぶ塑性加工(1)  
戸田宗敬氏(遠隔講義)

○第2日目 6月21日(火)

- 9:00- 9:30 円板の深絞り試験(説明)  
9:30-12:00 円板の深絞り試験(実験)  
13:00-15:30 データ整理(限界絞り比)  
15:30-17:00 経験に学ぶ塑性加工(2)  
森下忠晃氏(遠隔講義)

講師：1日目：戸田宗敬, 岩田隆道,  
葛森秀夫, 小森和武  
2日目：森下忠晃, 岩田隆道,  
葛森秀夫, 小森和武

持ち物：筆記用具, ノート, 関数電卓

資料：事前に配布します。

参考書：「例題で学ぶ はじめての塑性力学」

日本塑性加工学会編 森北出版(ご購入希望の方に「会員価格」で斡旋販売致します。¥2,250)

定員：10名(定員になり次第〆切)

参加費：会員 25,000 円(協賛学協会を含む, 学生は半額),  
非会員 40,000 円。ただし 3 回通しの参加費 (3 回分) は, 会員 60,000 円, 非会員 100,000 円 (1 回目申し込み時にご連絡下さい)。

申込方法：E-mail または FAX にて「東海支部第 35 回塑性加工技術セミナー板成形コース (1 回目) 申込み」と題記し, (1)氏名, (2)勤務先(名称・部課名), (3)通信先(〒, 住所, 電話, FAX, E-mail), (4) 会員資格 (所属学協会および会員種別), (5) 3 回通しでの申し込みの希望の有無, (6)「例題で学ぶ はじめての塑性力学」斡旋購入希望の有無を明記して, 下記(a)までお申し込み下さい。  
※ 参加費は参加券・請求書を受領後に下記(b)へ振込にてご送金下さい。請求書受領後の返金はありません。

※ 連絡には通常 E-mail を使いますので, できるだけ E-mail でお申し込み下さい。

- (a) 申込先：日本塑性加工学会東海支部  
(庶務幹事：安部 洋平)  
豊橋技術科学大学 機械工学系  
E-mail : tokai@jstp.or.jp  
TEL : 0532-44-6705  
FAX : 0532-44-6690
- (b) 振込先：三菱東京 UFJ 銀行 金山支店  
普通預金口座：0008932  
口座名義：日本塑性加工学会 東海支部

※検温やアルコール消毒等, 大同大学のコロナ対策を行います。また, コロナ禍のため直前に開催を中止することもあります。